

敦賀2号機 審査再開

資料書き換え問題で中断

原子力規制委

原子力規制委員会は九日、審査資料を不適切に書き換えた問題で中断していた日本原子力発電敦賀原発2号機（敦賀市）の再稼働に向けた審査を再開した。原子炉建屋の直下にある断層が、将来動く可能性のある「活断層」かどうかを焦点で、審査は長期化する見通しのままだ。

審査会合は中断前の二〇二〇年十月以来で、原電は前回までに提出した断層の活動性を否定するための資

料を百五十七カ所修正して示した。だが担当の石渡明委員が「これを基に審査はできない」と指摘し、大幅に修正した根拠を明示して

再提出するよう原電に求めた。

敦賀原発を巡っては、規制委の有識者調査団が一五年、2号機直下に活断層が

あるとする報告書をまとめた。それでも原電は再稼働の審査を申請。活断層でないことを証明できなければ廃炉は免れず、反論を続けている。

だが敷地内の掘削調査試料を分析した「ボーリング柱状図」などで無断の書き換えが計八十カ所見つかり、規制委は審査を中断していた。